



URA シンポジウム セッション

国際的な研究ネットワーク構築に必要な支援とは ～URA主導の事例紹介も交えて～

日 時： 2014年9月17日(水) 14:15～15:45
会 場： 北海道大学 学術交流会館 第1会議室
主 催： 第4回URAシンポジウム・第6回RA研究会・エルゼビア・ジャパン株式会社
対 象： 大学・研究機関の経営企画・研究戦略策定・研究支援・国際連携等の業務に携わる方

プログラム

University 2.0 とその先へ

- なぜ、今こそ日本が行動をおこすべきなのか

アンダーシュ・カールソン Anders Karlsson Ph.D.

Elsevier グローバル・アカデミック・リレーションズ 副社長

東北大学の事例紹介:

清家 弘史 氏 Hirofumi Seike, Ph.D.

東北大学 研究推進本部 ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター 特任准教授

岡山大学の事例紹介:

宇根山 絵美 氏 Emi Uneyama, Ph.D.

岡山大学 学長特命(研究担当)リサーチ・アドミニストレーター

エルゼビアの研究マネジメント支援サービスの活用事例とヒント

恒吉 有紀 エルゼビア・ジャパン ソリューション・マネージャー

司会: 清水 毅志 エルゼビア・ジャパン ソリューション・マネージャー

URA シンポジウム セッション

講演者略歴のご紹介

アンデーシュ カールソン **Anders Karlsson Ph.D.**

Elsevier グローバル・アカデミック・リレーションズ 副社長



1992年スウェーデン王立工科大学量子工学博士号取得、NTT 物性科学基礎研究所 研究員、スタンフォード大学 客員研究員を経験後、ポリテクニック工科大(フランス)、浙江大学(中国)で教鞭をとる。2001年から2011年スウェーデン王立工科大学 量子光学教授。2004年 EU デカルト賞受賞。2007年～2012年スウェーデン大使館 科学技術参事官を経た後、2012年11月より現職。アジア太平洋地区を主とした戦略的な連携構築を主に担当。大阪大学未来戦略機構の顧問も務める。

清家 弘史 氏 **Hirofumi Seike, Ph.D.**

東北大学 研究推進本部 ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター 特任准教授



1995年東京大学理学部化学科卒業、1997年東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了、2003年 The Scripps Research Institute 化学科 Ph.D.コース修了。Harvard University、京都大学での博士研究員を経たのち、2011年から2013年まで英国王立化学会 (Royal Society of Chemistry) 日本事務所日本代表を務める。2013年7月より東北大学研究推進本部 URA センター特任准教授として、東北大学の研究分野における国際競争力の分析を担当。

宇根山 絵美 氏 **Emi Uneyama, Ph.D.**

岡山大学 学長特命(研究担当)リサーチ・アドミニストレーター



2001年関西学院大学理学部化学科卒業、英国レスター大学 (University of Leicester) 化学科 Ph.D.コース進学、Ph.D.取得。化学系企業及び大学にて研究員として勤務した後、2012年9月より岡山大学リサーチ・アドミニストレーターに着任。現在は、岡山大学の研究力強化、研究力分析、国際連携強化に取り組んでいる。